

長期処理計画

この計画は、J E S C O 北九州 P C B 処理事業所において、P C B 廃棄物を期限内に確実に処理するため、長期的な処理の計画を定めるものである。平成 2 8 年度末での見直し状況は以下の通り。

I 処理対象 P C B 廃棄物

1 北九州事業エリアの処理対象物

中国、四国、九州・沖縄地域（岡山以西 1 7 県）の全ての P C B 廃棄物が対象。
平成 2 9 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。

- | | |
|-------------|------------|
| ① 大型変圧器 | 3 4 台 |
| ② 小型変圧器 | 8 0 台 |
| ③ コンデンサー | 2, 7 8 9 台 |
| ④ 安定器及び汚染物等 | 2 9 0 トン |

2 北九州事業エリア外の処理対象物

近畿、東海、南関東地域（1 4 都府県）の一部の P C B 廃棄物が対象。
平成 2 9 年度以降の処理対象量の見込みは以下のとおり。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ① 車載変圧器（豊田事業エリア） | 6 3 台 |
| ② コンデンサー（東京事業エリア） | 3, 2 2 0 台 |
| ③ 安定器及び汚染物等（豊田及び大阪事業エリア） | 約 3, 2 2 5 トン |

II 処理進捗状況及び処理計画

これまでの処理進捗状況と上記の処理対象台数を踏まえた年度ごとの処理計画を策定することにより、期限内の処理を確実に実施する。

1 処理進捗状況

北九州事業エリアの処理対象物については、平成 2 9 年 3 月現在で変圧器 9 7 %、コンデンサー 9 5 %、安定器及び汚染物等 9 2 % の処理が完了している。

北九州事業エリア外の処理対象物については、豊田事業エリアの車載変圧器 5 2 %、東京事業エリアのコンデンサー 6 3 %、豊田及び大阪事業エリアの安定器及び汚染物等 2 2 % の処理が完了している。

2 年度ごとの処理計画

北九州事業エリアの処理対象物の処理の進捗状況を踏まえ、車載変圧器（豊田事業エリア）及びコンデンサー（東京事業エリア）は施設の空き能力の活用、安定器及び汚染物等（豊田及び大阪事業エリア）は施設の最大稼働により、変圧器・コンデンサーは平成30年度末まで、安定器及び汚染物等については平成33年度末までに処理を行う。

年度ごとの処理計画は別添1のとおり。

3 処理促進策

期限内に確実に処理を完了するため、以下の処理促進策を講じている。

① 掘り起こしで確認した JESCO 未登録の保管者に対する取組

掘り起こしで確認した未登録事業者について、地方環境事務所（環境省）・自治体との三者間の連携をより一層強化し、各自治体と共有している未処理事業者等の情報をもとに登録の促進を図っています。

② 登録及び契約等に対して消極的又は困難な保管者に対する取組

地方環境事務所（環境省）・自治体と連携し、現地に出向いて、個別に変更登録、契約等の手続きを促し、登録、契約、中小申請等の手続きにおいて書類を整えることが困難と思われる場合（高齢者等）には、登録・契約の決断を早めるためにも現物の確認を行い手続きの代行を行っています。

③ 出し渋り保管者に対する取組

処理費用の工面が困難であることを理由に契約手続きを拒否しているなどの出し渋る保管者に対して、地方環境事務所（環境省）・自治体と同行訪問し、説得を行っています。

④ 運搬費軽減に係る取組

保管者（物）が減少することで運搬費が高騰することが予想されることを踏まえ、ルート回収により運搬費が安価になるよう中小保管者の集中搬入期間を設定しています。

⑤ 北九州事業エリア外からの円滑な搬入

豊田事業エリアの車載変圧器及び東京事業エリアのコンデンサーについて、当該保管事業者による速やかな処理対象物の登録・処理委託契約の締結に向けた調整を行っています。

⑥ 料金支払制度の拡充

分割払い制度を、平成27年度から北九州事業エリア外でも運用しています。

4 その他

一日も早い処理完了につなげるため、処理対象物の適正化を図る以下の取組も進める。

- ① 現在、処理のために運び込まれている安定器の中には、本来弊社にて処理する対象でない「P C B不使用の安定器」が混在している可能性があるため、保管場所での処理対象物の仕分けが徹底されるよう、保管事業者に促す。
- ② 安定器のうち「コンデンサー外付け型」のものについては、目視により、膨張、腐食、油にじみ等コンデンサーの形状及び性状に変化が生じておらず、P C Bの漏洩がないと確認出来るものは例外として、コンデンサーの取り外しが認められていることから、保管場所において確認の上、取り外しが徹底されるよう、保管事業者に促す。
- ③ 上記①及び②の取組を徹底しつつ、今後、北九州事業所内に運び込まれている安定器の中に、コンデンサー外付け型の安定器等が混入しているかどうかについても確認し、確認された場合においては、プラズマ処理の一層の効率化を図るため、北九州事業所内においても上記と同様の作業を行うことを検討していく。

北九州PCB処理事業所における年度ごとの処理計画

区分	(参考) 平成28年度 処理量の 実績	平成29年度以降 の 処理量の見込み	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
大型変圧器	33台	34台	34台				
小型変圧器	13台	80台	56台	24台			
車載変圧器	豊田エリア	38台	63台	44台	19台		
コンデンサー	北九州エリア	1,667台	2,789台	1,769台	1,020台		
	東京エリア	1,945台	3,220台	2,640台	580台		
安定器及び 汚染物等	北九州エリア	146トン	290トン	154トン	136トン		
	大阪・豊田エリア	595トン	約3,225トン	498トン	574トン	730トン	730トン
							695トン

注：平成28年度処理実績：平成29年3月31日時点の中間処理完了ベース（マニフェスト単位：D票ベース）

注：安定器及び汚染物等の処理量の見込みには缶重量を含まない

平成29年度処理計画

区分	処理計画量	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
大型変圧器	34台	12台	6台	12台	4台	34台
小型変圧器	56台	9台	15台	15台	17台	56台
車載変圧器	豊田エリア	44台	12台	8台	12台	44台
コンデンサー	北九州エリア	1,769台	770台	944台	924台	1,771台
	東京エリア	2,640台				
安定器及び 汚染物等	北九州エリア	154トン	169トン	165トン	154トン	164トン
	大阪・豊田エリア	498トン				

廃安定器の仕分けの徹底・促進 について (Ver.2.2)

- 早期処理の実現に向けて -

平成29年 5 月



環境省



中間貯蔵・環境安全事業株式会社

1. 安定器とは①

安定器とは、

- 蛍光灯器具**（オフィス・教室用等）
- 水銀灯器具**（高天井用・道路用）
- 低圧ナトリウム灯器具**（トンネル用）

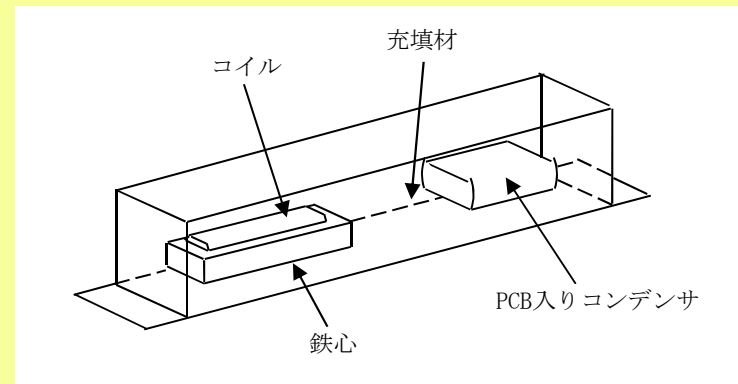
等を**安定的に点灯させるための装置**



※日本照明工業会HPより

1. 安定器とは②

安定器によっては、内部に
**PCBが封入された
コンデンサ**
が存在

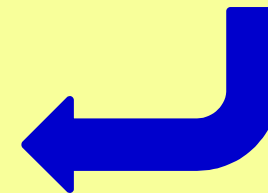


器具内に古い安定器が
残っている例



工場等の壁際に設置されてい
る複数の安定器の例

廃安定器の掘り起こし
掘り起こし調査により
新たに廃安定器が発見
される事例が多い！



2. 廃安定器の保管実態

保管物には J E S C O 処理対象物以外が混在



○「P C B 不使用安定器」


- ・PCBは、昭和32年1月～47年8月製造の安定器の一部にのみ使用
- ・JESCO処理対象物ではない「**PCB不使用安定器**」が混在した事例多数

○「コンデンサ外付け型安定器」

- ・コンデンサの取り外しにより、残部材(トランス部)を低濃度PCB処理施設で処理可能となる「**コンデンサ外付け型安定器**」が混在
- ・汚染のおそれなく安全にコンデンサを取り外せる廃安定器が多数（コンデンサ部分はJESCOで処理）

3. 仕分け促進の目的

廃安定器の仕分けの徹底・促進



処理対象量の適正化



早期処理の実現！

4. 廃安定器の仕分けとは

高濃度PCB廃棄物でないものを取り除くこと

仕分け

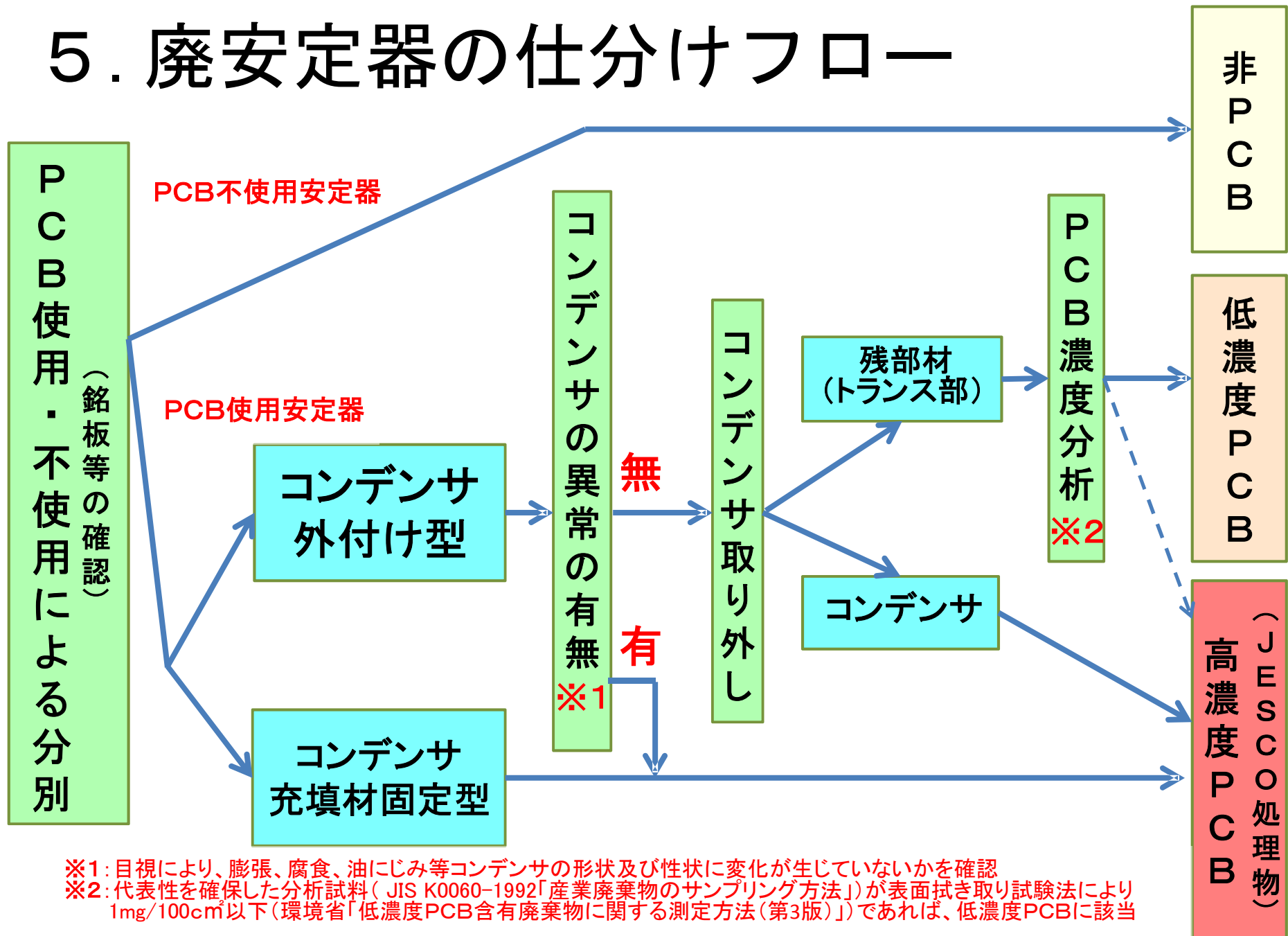
■ 分別 ■

- ・保管された廃安定器を**分別**し、「PCB不使用安定器」を取り除く

■ 取り外し ■

- ・保管された廃安定器のうち、「コンデンサ外付け型安定器」のコンデンサを**取り外す**
(コンデンサはJESCOで処理)
- ・コンデンサ取り外し後の残部材(トランス部)は、PCB濃度分析により、**低濃度**であることを確認して、取り除く

5. 廃安定器の仕分けフロー



6. PCB不使用安定器の分別方法②

■分別作業■



色による情報
(パナソニック製の緑→不使用)



刻印による情報
(「NO PCB」表示→不使用)

7. コンデンサの取り外し方法①

(コンデンサ外付け型安定器)

■「コンデンサ外付け型安定器」の分解・解体■

原則禁止 → **ただし**、「目視により、膨張、腐食、油にじみ等
コンデンサの形状及び性状に変化が生じていない
ことが確認できた場合」、生活環境保全上の支障
防止措置の実施 → **コンデンサ取り外し可能**



根拠：

- 「環境大臣の定めるポリ塩化ビフェニル汚染物」
(平成27年環境省告示第135号)
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の
一部改正等について(通知)
(平成27年環境産発第1511242号)
- ポリ塩化ビフェニルが使用された廃安定器の分解又は
解体について(通知)
(平成26年環境産発第14091618号)

7. コンデンサの取り外し方法②

(コンデンサ外付け型安定器)

■コンデンサの取り外し作業■



コンデンサ外付け型 安定器

(左側に見える金属バンド
で固定されたものがPCB
含有コンデンサ)



生活環境保全上の支障 を防止する措置(例)

(ビニールを敷いたオイル
パン内で取り外し作業を
実施)



コンデンサの 取り外し作業

(固定された金属バンドを
工具で解除)

※ 目視により、膨張、腐食、油にじみ等コンデンサの形状及び性状に変化が生じていないかを確認

7. コンデンサの取り外し方法③

(コンデンサ外付け型安定器)

■コンデンサの取り外し作業■



コンデンサの 取り外し作業

(安定器本体とコンデンサと
を接合するリード線を切断)



コンデンサ取り外し作業後の安定器

(取り外しが完了するまでの所要時間2～3分)

7. コンデンサの取り外し方法④

(コンデンサ外付け型安定器)

■残部材(トランス部)の試料採取■

コンデンサ取り外し後の残部材(トランス部)のPCB含有量測定のための試料採取 (濃度 $1\text{mg}/100\text{cm}^2$ 以下※→低濃度PCB)



試料採取のための
機材




試料採取の様子

金属の表面を所定の箇所数以上(例えば、ドラム缶収納の場合は3ヶ所以上)から
合計 100cm^2 以上の拭き取り

※: 代表性を確保した分析試料(JIS K0060-1992「産業廃棄物のサンプリング方法」)が表面拭き取り試験法により $1\text{mg}/100\text{cm}^2$ 以下(環境省「低濃度PCB含有廃棄物に関する測定方法(第3版)」)であれば、低濃度PCBに該当

8. より厳密な仕分けの必要性

高い仕分けの知見・技能



より厳密な仕分け



処理対象量の適正化

9. お問い合わせ先

中間貯蔵・環境安全事業(株) (JESCO)

PCB処理営業部 営業企画課

TEL 03-5765-1946

産業廃棄物適正処理推進センター ※

((公財)産業廃棄物処理事業振興財団内)

TEL 03-6672-8079

※ 廃棄物処理法第13条の12の規定に基づき環境大臣が指定した法人

環境省

大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課

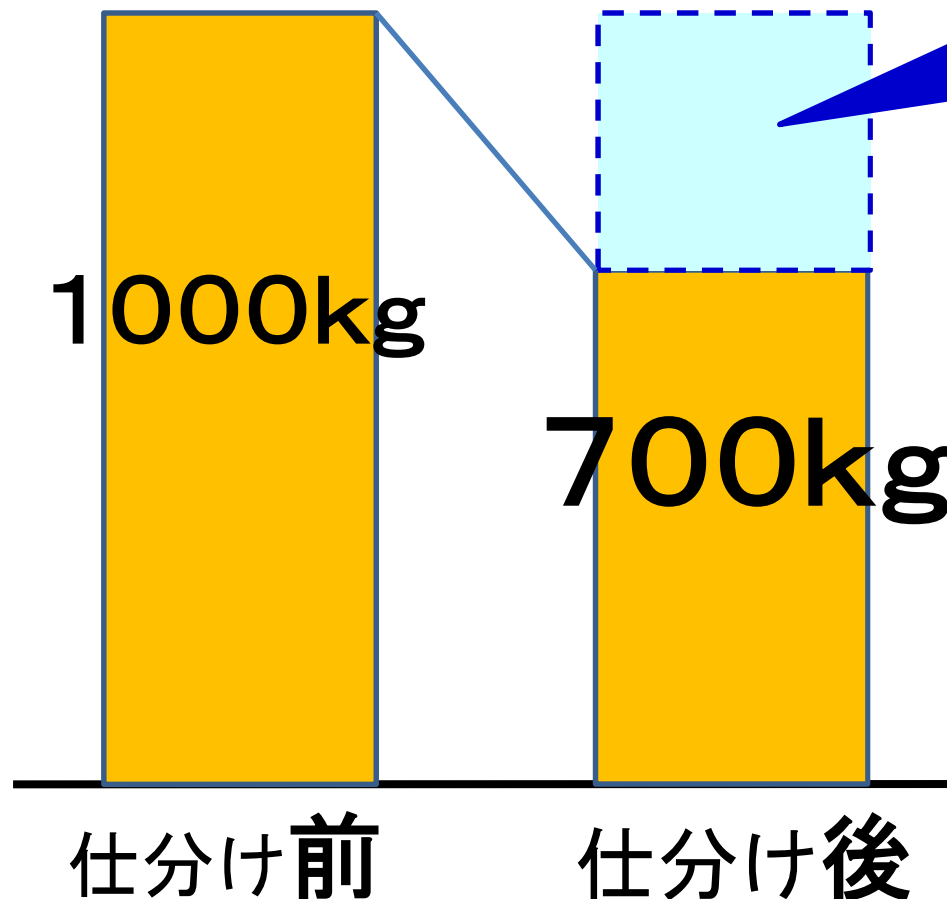
TEL 03-6457-9096

(参考) 仕分けの保管者メリット

— 処理費用の適正化(→経費節減!) —

JESCOへ「搬入荷姿登録」を申請する前に、
より厳密な仕分けを行った場合の例

1000kgの安定器を保管していたケース



JESCO処理
対象外

処理費用の削減が
見込まれます!

処理料金は重量ベース→28,000円/kg(税抜)
(個人95%、中小企業者70%の負担軽減制度あり)

(公財)産業廃棄物処理事業振興財団
が直近2年間に直接かかわった
約837トン(約38万個)の廃安定器の
仕分け実績の平均は3割減

高濃度 P C B 廃棄物の
早期処理の実現に向けて

仕分けの徹底・促進のための
ご支援、ご協力を
お願いいたします！